

(単元) 消費生活・環境

(本時のねらい)

- ・多様化する消費者問題にどのように対処すべきか考えを深め、まとめたり、発表することができる。
- ・契約上のトラブルから消費者を救済する制度や法律について理解している。

(ICT活用方法)

それぞれの班で学習した内容を、電子黒板を使って共有し、時間を効率よく使うことができた。従来は、共有するとき、生徒が口頭で発表していたが、電子黒板を用いて発表することができるため、分かりやすく、自信を持って発表することができた。

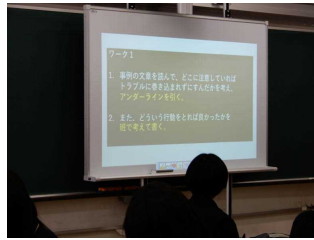
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 5分	本時の目標を確認する。	本時の目標を示す。	本時の目標や、使用する消費者庁作成教材「社会への扉」(以下、冊子)を提示する。	
展開 35分	契約について知る。 消費者トラブルの事例について考える。 クーリングオフとその他の契約をやめる方法について知る。 消費生活センターについて知り、自分たちの行動が社会に及ぼす影響について考える。	10 グループを3つの事例に振り分け、どこに気をつけていれば被害に遭わなかったか考えさせる。 フローチャートを用いて、社会に及ぼす影響を考えさせる。	冊子を拡大掲示する。 グループ分けと、それぞれどの事例を学習するかを掲示する。 事例のどこに気をつければ良かったか、電子ペンを使って、電子黒板に生徒が記入する。 冊子のフローチャートを拡大掲示し、生徒と一緒にフローチャートを辿る。	
まとめ 5分	本時の学習の感想をワークシートに記入する。	本時の学習内容をまとめる。		

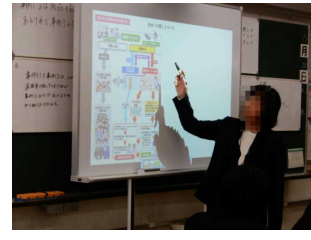
(授業の様子)



生徒が電子黒板に記入する



グループワークの進行揭示



冊子の説明

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

グループ活動を展開するときは，ICTを活用すると，教師が口頭だけで指示するよりも生徒の学習への取りかかりが早い。また，次の活動へと展開するときも，視覚的な教材提示があれば，生徒は自主的に判断して，学習に取り組むことができる。

画面が変わってしまうと，前の画面を確認したかったという生徒もいるため，残しておきたい内容については，板書やホワイトボードを活用することが必要である。